



義務教育学校 小笠原村立母島小中学校

教育目標

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

- (1) 意欲的に学ぶ児童・生徒
- (2) 自らきたえる児童・生徒
- (3) 社会のために尽くす児童・生徒



児童・生徒数

児童数 23 名 生徒数 8 名 (令和 7 年 4 月 現在)

住所 〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

電話 04998-3-2181/2182 FAX 04998-3-2184

HP <https://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp>

母島で教え、教わる

東京から約一〇〇〇キロメートル南の小笠原諸島、そこに母島があります。竹芝桟橋からおがさわら丸で父島へ、そこからははじま丸に乗り継ぐ二航海。母島に着くには二十六時間ほどの時間が必要です。母島が近づくと、目で見る光景が心に焼きつき、忘れられないものになることでしょう。ボンブルーと呼ばれる海の色、島の木々の鮮やかな色合いが作り出す景色。母島での教員としての生活はこの環境の中から始まります。

ここで、子どもたちとかわかり、日々の生活を送る中で大切なものを教わっているような気がします。ここでの経験は教員として、かけがえないものとなるはずです。

令和七年度赴任者の声

母島の子どもの印象は？

とても穏やかでのびのびとしています。母島の自然の中で育ったからこそ、何事にも動じない気持ちの温かさや心の豊かさがあるように感じます。私たち大人にいつも明るい元気なエネルギーを与えてくれます。

素直で良い子ばかりです。初対面でも積極的に話をしてくれる子がたくさんいてびっくりしました。前期課程、後期課程関係なくみんな仲良しだと思いました。まるで島の子全員が兄弟のようです。上級生の下級生に対する面倒見が本当に良いと思います。島ならではの関係性だと感じています。



令和7年度 義務教育学校としてスタートしました

前年度までは、同じ校舎で学ぶ母島小学校・母島中学校でしたが、令和7年度より改めて校種の枠組みが義務教育学校となり、母島小中学校としてスタートしました。今年度の校内研究では、義務教育学校だからこそできることを研究していきます。

(後期課程の音楽・美術・家庭・体育科教員が前期課程の授業を担当)

**9年間の教育課程を見据えた一貫性のある指導を
あなたも研究・実践してみませんか。**

仕事でやりがいを感じる時は

どんな時ですか？

とにかく島の人々がとても温かいです。島民以外の方々を疎外するような雰囲気・意識は全くなく、とてもフレンドリーです。保護者・地域の方々の協力は不可欠なものです。とても協力的で助けられています。島全体で母島の子供たちを育てています。

地域の方や保護者がとても協力的で島民全員で子どもを育てているところが素敵だと思います。小中学校の先生が校種関係なく様々なことができることもよいところだと思います。

海水泳



北村
校外学習



島での生活は大変ですか？

慣れるまで一週間ほどかかりましたが、島民の方も職員もとても親切にいろいろ教えてくれるのですぐになじめると思います。今現在は特に大変さを感じていませんが、荷物だけは届くのには時間がかかるので、ネット通販などを計画的に利用するとよいと思います。

最初は不安ばかりでしたが、住んでみると本当に暮らしやすさを感じます。わからないことや困っていることがあれば、島民の方が優しく教えてくれたり、いろいろと手配してくれたり地域の方がとても温かいです。道端で島民の方が挨拶してくれるので、温かい気持ちになります。